世界の人々との交流の拡大

世界の人々との交流拡大を目指し、地域外交の深化や通商の促進、国際競争力の高い観光地域づくりを進める静岡県。今回は、旅客ターミナルビルの増築・改修によってリニューアルした富士山静岡空港について紹介する。

新時代の地域空港へ飛翔！
富士山静岡空港の新たな運営体制

旅客ターミナルビルを大幅にリニューアル

本県のほぼ中央に位置する富士山静岡空港は、新東名高速道路や東名高速道路に挟まれ、地理的な利便性に優れるとともに、約2000台の無料駐車場やコンパクトにまとまった旅客ターミナルビルによって、搭乗手続き等がスムーズに行えるという利点を持つ。そのため、大都市の空港を避けて同空港を選ぶ利用客も存在する。しかし、近年はインバウンド需要の高まりや路線の増加を受けて、発着ロビー周辺が混雑するケースが見られ、世界的スポーツイベントの開催を控えている本県にとって、空港機能の強化は急務であった。

このような課題を解消し、空港の利便性向上や利用促進を図るため、本県は、平成28年11月から旅客ターミナルビルの増築・改修を進めてきた。既存の旅客ターミナルビル西側に建物を増築し、国内線を集約。ビル東側にも建物を増築し、改修と併せて国際線の機能を強化した。これらの増築・改修によって旅客ターミナルビルの延べ床面積は、約1・5倍（12093㎡から約18200㎡）に広がり、搭乗待合室の座席数も国際線・国内線ともに充実した。ほかにも保安検査場、手荷物受取のベルトコンベア、旅客搭乗橋等の施設が拡充され、利用客の利便性は大きく向上。同時間帯の航空機受入も可能になった。また、飲食・物販スペースが従来の約3倍（610㎡から約1780㎡）に拡張したことや、県内の人気飲食店4店舗がフードコートに新規オープンすることも大きなトピックだ。

利用者の目線に立ったサービスの向上

富士山静岡空港のリニューアルは、規模や機能だけでなく、利用者の目線に立ったサービス向上も大きな柱だ。基本コンセプトに「利用者にとって便利で利用しやすい空港」「日本の玄関口としてのおもてなしの充実」「利用者が楽しめ安らげる空間」「地域の賑わい・交流・情報発信の拠点としての空港」を掲げ、それらを具現化している。例えば、増築部の屋根は、庇のある大屋根を採用し、県産材を等間隔に並べる構造によって、柔らかい和の雰囲気を創出。国際線出発ロビーには「文化芸術回廊」を整備し、日本の象徴・富士山に関わる文化芸術作品、本県出身の牧野宗則氏の陶板画「いのちの花」や、書道家杭迫柏樹（くいせこはくじゅ）氏から寄贈いただいた柴野栗山（しばのりつざん）の漢詩「富士山」を配置した。また、施設や設備のサイン表示は多言語に対応し、ピクトグラムとともに、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字、繁体字）を使用。旅客ターミナルビルの2階にはムスリムにも対応した礼拝室を男女別に2室新設し、さらにインドネシア語、マレーシア語、正統アラビア語を加えて表示した。

ムスリムにも対応した礼拝室は男女別に2室を新設。サイン表示も多言語に対応している。

大屋根のある旅客ターミナルビル。設計者は坂茂建築設計・日本空港コンサルタンツ（BANJAC）。既存施設との統一感も図っている。

民間事業者による新たな運営体制へ

旅客ターミナルビルのリニューアルは、行政による空港「管理」から、民間による空港「経営」へ転換するためのステップとなっている。本県は空港の開港当初から民活化の理念のもと、他の地方管理空港に先駆けて指定管理者制度を活用した管理運営を行うなど、効果的・効率的な運営への取り組みを段階的に進めてきた。平成26年度からは、指定管理業務を拡大するとともに、県が旅客ターミナルビルの増築・改修を行い、平成31年度からは、運営を行う権利である「公共施設等運営権」を民間事業者に付与するというプロセスだ。これは、平成25年の「民活空港運営法」の制定を受けたもので、経営の主体となった富士山静岡空港株式会社に、公募で選ばれた三菱地所株式会社と東京急行電鉄株式会社が資本参加し、空港の一体的な運営を行うことになる。既に昨年11月に運営権の設定と実施契約の締結が行われ、今年4月からは新たな体制による空港運営が始まる。

国際交流の拠点へ

富士山静岡空港の周辺には「ふじのくに茶の都ミュージアム」等の観光スポットがあり、JR、大井川鉄道、東名高速道路、新東名高速道路等の交通網も充実している。新たな運営体制になることで、民間のノウハウやネットワークを生かした幅広い事業展開も期待される。昨年12月には中国聯合（れんごう）航空による静岡－煙台線が新たに就航した。今後も路線の拡充に留まらず、館内施設やサービスの充実、空港周辺施設との連携も含め、県、地域、運営権者が一体となって空港の活性化を図ることで、富士山静岡空港自体が新たな賑わいの場所として、「わくわく」を感じることのできる空間となるはずだ。

今年の秋にラグビーワールドカップ2019、来年には東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を控えている本県を訪れる人は今後ますます増加するだろう。空港が、国際交流や情報発信の拠点となり、本県の交流人口の拡大や経済発展への貢献も期待できる。

今年6月の開港10周年の節目を前に同空港は、首都圏空港の一翼を担う日本の空の玄関口として羽ばたこうとしている。

富士山静岡空港のリニューアルスケジュール

平成28年	11月	増築・改修工事着手
平成29年	10月	東側増築部供用開始
平成30年	4月	新国内線ターミナル供用開始
	10月	新国際線ターミナル供用開始
	12月	リニューアルオープン記念式典・イベント開催
平成31年	2月	フードコート第2弾オープン
	4月	新たな運営体制へ移行

静岡市出身の版画家・牧野宗則氏による陶板画「いのちの花」。

森町出身の書道家・杭迫柏樹氏による柴野栗山の漢詩「富士山」。今回のリニューアルに合わせ寄贈いただいた。

昨年12月22日に行われた記念式典。関係者らがくす玉を開きリニューアルを祝った。